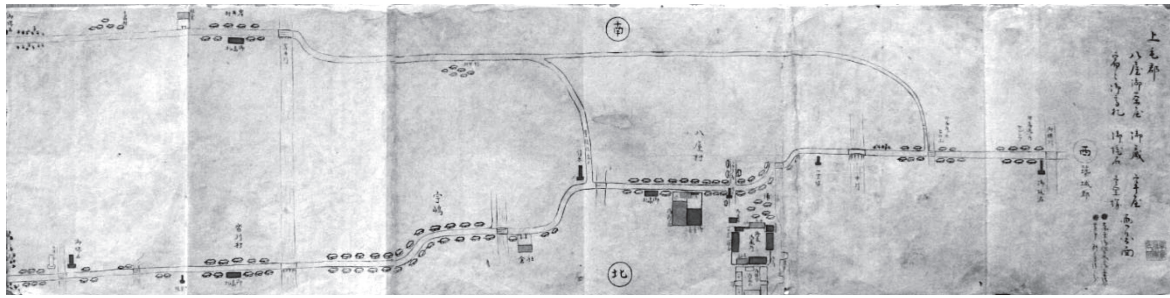
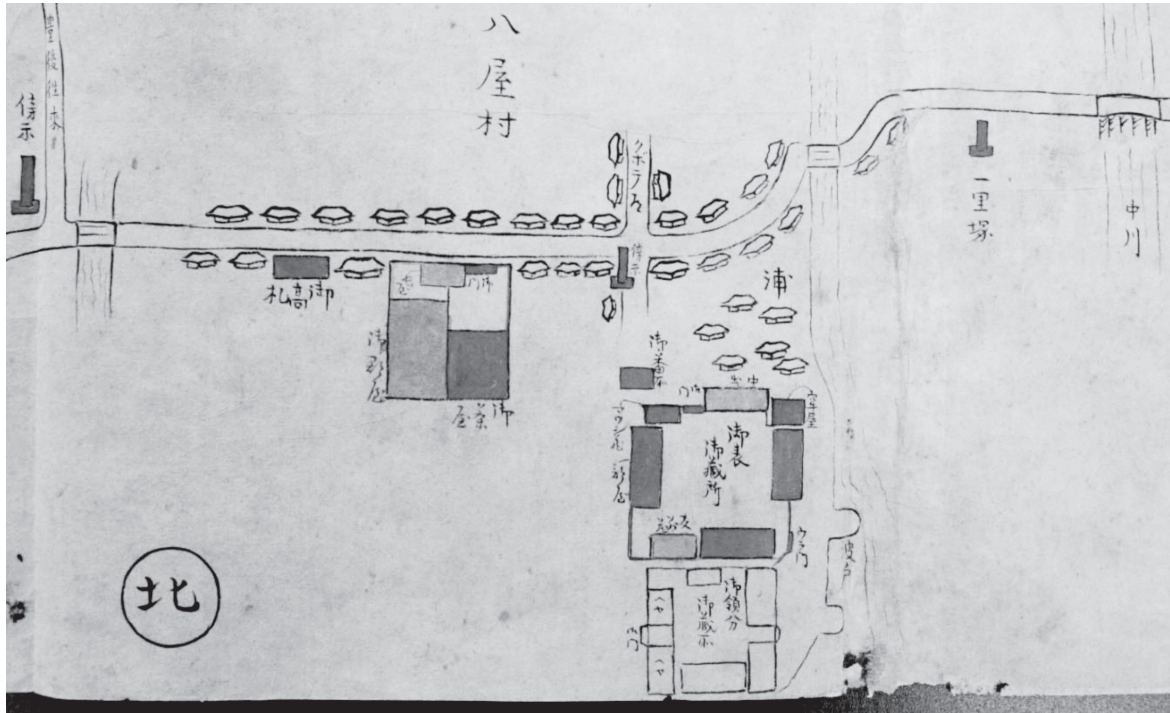




近世絵図に描かれた街道



上毛郡八屋御茶屋・御蔵・牢屋・宿々御高札・御境石・一里塚の図



一里塚跡



道標（求菩提道始点）



御茶屋跡



千束藩屋敷絵図

(11) 町並み

中津街道沿いの、明治から昭和初期にかけて建てられたと思われる家屋を中心に外観調査を行いました。

旧街道沿いの民家の多くは、戦後に新しく建て替わっていますが、現在もいわゆる伝統的な民家も残存しており、旧街道の風情を感じることができる町なみとなっています。

中津街道や中津道（下往還）の沿道には松江と八屋に宿が置かれ、その他に四郎丸、宇島、杓川などの集落がありました。松江、八屋、宇島にはかつて宿場町であったことから町屋を中心とした町なみが見られます。俳人である種田山頭火も放浪の途中で宇島に宿泊したことを『行乞記』に記しています。その他は農家の形態を残した町なみとなっています。それぞれの地区の民家に見られる特徴や町なみは以下のようになっています。

松 江：入母屋 2 階建て瓦葺き下屋付き平入、2 階の階高が低く外壁は漆喰塗り、1 階は開口部が多く、木製格子

宿場町を思わせる直線的な道路と整然とした町なみとなっています。

JR 豊前松江駅は切妻屋根に外壁は下見板張りで昭和 7 年築造。

四郎丸：寄棟瓦葺き 1 階建て下屋付き平入、玄関は奥まっている

寄棟トタン葺き 1 階建て下屋付き平入、茅葺きにトタンで覆っている

地形に沿った道で、沿道の家屋には道路に面して庭があるなど、農家的な屋敷構えが多く見られます。

八 屋：寄棟 2 階建て瓦葺き下屋付き平入、2 階は階高が低く外壁漆喰塗り

前面に格子を付けた町屋も見られ、間口が狭く建て込んだ町なみには、宿場町の風情があります。

宇 島：切妻、入母屋、寄棟 1 階建て、2 階建て、いずれも平入

宇島港周辺は船宿など旅館を営業していた建物も残り、街道沿いの民家も商店などが建て込んでかつてのにぎわいを感じさせる町なみとなっています。東側は街道も曲がり、宿場町の入口を思わせる町なみです。

杓 川：切妻 2 階建て下屋付き、一部突出しその屋根は入母屋

海岸から約 300m 離れた直線的な道となっています。敷地は街道に面して庭がありゆとりがある屋敷構えの町なみが続いています。

松江や八屋、宇島などかつての宿場町や港町では道路に面して間口が狭く、建て込んだ町なみとなっていますが、宿場を外れると、四郎丸や杓川などは、間口も広く道路に面し庭があるなど敷地に余裕が見られ、地区によって街道の町なみに特徴がみられます。

家屋は全体的に平入が多く、豊前地域の農家などに見られる玄関部分を、半間下げた位置に設ける家屋も見受けられます。